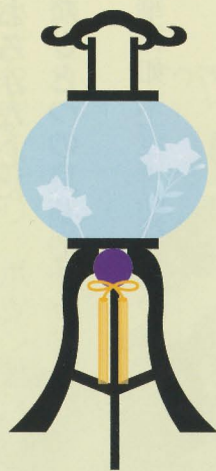


お盆のお参りに伺いますと、お仏壇に子どもの通信簿がお供えしてあることがあります。いつもお陰をいただいているご先祖さまへのご報告、また感謝の表れでしょう。たいへんありがたい気持ちになります。



子どもの頃、身体にできたイボをおばあちゃんに見せると、お仏壇の前につれていかれ、お供えしてあったお霊供膳りょうぐげん(ほとけさまのお膳)のお箸でイボをつままれ、「これで大丈夫。ほとけさまがもっていってくださる」といわれ、不思議と治ったなんて話を聞きました。そういえば、おねしょがなかなか治まらないので、お会式桜の花びらを身体に貼ってお題目を唱えてもらった話や、熱がでて寝ている時、氷枕を換えてもらいながら、お数珠で頭や背中をさすりお題目をあげてもらったことなど色々な話を聞きます。

幼いころにしてもらったほとけさまの手当は、病院の治療とはまた別に、大きくなっても暖かな思い出であり、親、祖父母、家族のありがたみとともに、信仰の根として心の深いところにとどまっているように感じます。



お盆のお休みはバカンスのためだけではなく、親族が集まり、お仏壇の前でお題目をお唱えし、ご先祖さまの話をしながら食卓を囲むなど、笑顔で団欒し信仰を深め伝える絶好の機会です。心豊かな子どもを育てるには、お題目、お盆、供養、お仏壇、ご先祖さまがなされた宗祖日蓮大聖人がお示しになられた信仰が不可欠です。